

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こども発達支援センター 大分なごみ園		
○保護者評価実施期間	2025年12月20日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年12月20日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	充実した玩具・広いホール・園庭で個別にクールダウンできる場所を設置するなど環境設定の面で充実している事と共に、専門性を持った職員（社会福祉士、看護師等）を配置しており多角的な支援を提供しています。	対人コミュニケーションの能力を向上してもらえるように「代弁的コミュニケーション」を用いて自分の気持ちや他児の気持ち、周りの状況などを本児に伝え、気づきコミュニケーションが向上していけるように取り組んでいます。	外部研修や内部研修の充実。心理担当職員などを雇用しさらに多職種で協働していけるように努める。
2	保護者や保育園等と密な連携、毎月実施している職員会議やクラス会議等で個々の発達段階について共通意識を持ち統一した関わりを提供している。	朝礼・終礼などで日々の変化などを都度話し合い共通理解が深まるように努めています。また一つの支援技法にこだわらず、その子にあったより良い支援を提供していけるように努めています。	
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自園調理をではなく保護者等からお弁当を持参して持っている。	利用定員が少なく、調理員を雇用する人件費が捻出できない為。	利用定員の増員について検討。併せて外部委託にてお弁当の発注を検討。
2			
3			